

# 産業建設常任委員会審査日程

日 時 平成29年8月30日(水)  
午前9時～  
場 所 第2委員会室

## 審査内容

- 1 議案第65号 平成28年度山陽小野田市水道事業決算認定について(水道局)
- 2 議案第77号 平成28年度山陽小野田市水道事業会計未処分利益剰余金の処分について(水道局)
- 3 議案第66号 平成28年度山陽小野田市工業用水道事業決算認定について(水道局)
- 4 議案第78号 平成28年度山陽小野田市工業用水道事業会計未処分利益剰余金の処分について(水道局)
- 5 議案第72号 山陽小野田市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について(水道局)
- 6 議案第61号 平成28年度山陽小野田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について(下水道課)
- 7 議案第62号 平成28年度山陽小野田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について(下水道課)
- 8 議案第56号 平成28年度山陽小野田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について(都市計画課)
- 9 議案第60号 平成28年度山陽小野田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について(農林水産課)
- 10 陳情・要望について
- 11 閉会中の継続調査事項について

議案第 65 号 第 66 号

平成 28 年度 山陽小野田市【水道事業・工業用水道事業】決算書附属資料

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

【水道事業】

1	水道事業業務量対前年度比較表 .....	1
2	収益の収支決算対前年度比較表（消費税抜き） .....	2
3	水道事業資本の収支決算対前年度比較表（消費税込み） .....	4
4	水道事業貸借対照表対前年度比較表 .....	5

【工業用水道事業】

1	工業用水道事業業務量対前年度比較表・収益の収支決算対前年度比較表（消費税抜き） .....	工水	1
2	工業用水道事業資本の収支決算対前年度比較表（消費税込み） .....	工水	3
3	工業用水道事業貸借対照表対前年度比較表 .....	工水	4

平成28年度 業務量対前年度比較表 【上水道事業・簡易水道事業】

項目・区分	28年度決算 (A)	27年度決算 (B)	増減 (A-B)
給水人口	63,333人	63,644人	△ 311人
給水戸数	28,643戸	28,504戸	139戸
配水量	8,615,906m <sup>3</sup>	8,543,694m <sup>3</sup>	72,212m <sup>3</sup>
一日平均配水量	23,605m <sup>3</sup>	23,343m <sup>3</sup>	262m <sup>3</sup>
有収水量	7,455,025m <sup>3</sup>	7,395,839m <sup>3</sup>	59,186m <sup>3</sup>
一日平均有収水量	20,425m <sup>3</sup>	20,207m <sup>3</sup>	218m <sup>3</sup>
有収率	86.5%	86.6%	△0.1%

口径別有収水量・料金対前年度比較表

口径種別	平成28年度決算			平成27年度決算			対前年度比較増減		
	水量(m <sup>3</sup> )①	水道料金 (円:税抜)②	m <sup>3</sup> 単価	水量(m <sup>3</sup> )③	水道料金 (円:税抜)④	m <sup>3</sup> 単価	水量 ①-③	増減比	水道料金②-④
13mm	4,676,517	672,910,440	143.89	4,698,785	674,719,560	143.59	△ 22,268	99.5%	△ 1,809,120
20mm	539,201	88,775,650	164.64	516,340	84,942,080	164.51	22,861	104.4%	3,833,570
25mm	212,680	46,200,490	217.23	216,262	46,804,970	216.43	△ 3,582	98.3%	△ 604,480
40mm	405,402	100,038,870	246.76	399,687	98,665,290	246.86	5,715	101.4%	1,373,580
50mm	493,975	119,524,405	241.96	496,816	120,562,385	242.67	△ 2,841	99.4%	△ 1,037,980
75mm	580,051	143,868,980	248.03	563,717	140,806,780	249.78	16,334	102.9%	3,062,200
100mm	246,589	62,093,835	251.81	236,676	60,011,430	253.56	9,913	104.2%	2,082,405
150mm	261,187	66,024,770	252.79	226,101	58,548,210	258.95	35,086	115.5%	7,476,560
小計	7,415,602	1,299,437,440	175.23	7,354,384	1,285,060,705	174.73	61,218	100.8%	14,376,735
臨時	3,617	1,627,650	450.00	3,323	1,495,350	450.00	294	108.8%	132,300
船舶	26,154	9,938,520	380.00	28,103	10,679,140	380.00	△ 1,949	93.1%	△ 740,620
上水合計	7,445,373	1,311,003,610	176.08	7,385,810	1,297,235,195	175.64	59,563	100.8%	13,768,415
簡易水道	9,652	1,461,960	151.47	10,029	1,514,880	151.05	△ 377	96.2%	△ 52,920
総計	7,455,025	1,312,465,570	176.05	7,395,839	1,298,750,075	175.61	59,186	100.8%	13,715,495

平成28年度 収益的収支決算対前年度比較表【上水道事業・簡易水道事業】

収益的収入(消費税抜き)

区 分 項 目	平 成 28 年 度		平 成 27 年 度		増 減 (円)	備 考 ※金額は対前年度増減額 ※決算書P17及びP27.28 参照
	金 額 ( 円 )	構 成 比	金 額 ( 円 )	構 成 比		
上 水 道	水 道 料 金	1,311,003,610	92.4	1,297,235,195	92.5	13,768,415 有収水量59,563m <sup>3</sup> 増による増収 (対前年度101.06%)
	受 託 工 事 収 益	1,176,670	0.1	4,756,320	0.3	△ 3,579,650 給水管移設…下水道△3,233千円、県営河川改修△347(皆減)
	加 入 金	14,357,000	1.0	11,210,000	0.8	3,147,000 新規加入数の増(φ13 211→226件、φ20 84→146 ほか)
	他 会 計 負 担 金	5,555,771	0.4	5,690,705	0.4	△ 134,934 消火栓△631千円、料金システム改修966(皆増 下水)、児童手当502 ほか
	そ の 他 営 業 収 益	20,217,860	1.4	19,375,300	1.4	842,560 県工事負担金787千円 ほか
	受 取 利 息	1,696,729	0.1	2,742,288	0.2	△ 1,045,559 普通預金△117千円、定期預金△929
	他 会 計 補 助 金		0.0	2,000	0.0	△ 2,000 水源開発企業債利子補給(皆減)
	長 期 前 受 金 戻 入	60,669,191	4.3	60,142,289	4.3	526,902 当年度減価償却・除却対応分
	雑 収 益 ( 営 業 外 )	4,700,218	0.3	797,299	0.1	3,902,919 貯蔵品工水負担1,669千円、熊本地震1,479、工水・簡水共用施設負担325 ほか
	特 別 利 益 ( 上 )	168,684	0.0	0	0.0	168,684 消費税還付、過年度水道料金
小 計	1,419,545,733	100	1,401,951,396	100	17,594,337	
簡 易 水 道	水 道 料 金	1,461,960	11.1	1,514,880	11.9	△ 52,920 有収水量△377m <sup>3</sup> による減収 (対前年度96.5%)
	他 会 計 補 助 金	8,104,146	61.4	8,517,613	66.7	△ 413,467 利子補給(1,293千円→1,186)、収支不足(7,224千円→6,918)
	長 期 前 受 金 戻 入	1,681,255	12.7	884,110	0.0	797,145 当年度減価償却・除却対応分
	特 別 利 益 ( 簡 )	1,954,687	14.8	1,847,089	0.0	107,598 過年度分長期前受金戻入相当額
小 計	13,202,048	100	12,763,692	100	438,356	
収 入 計	1,432,747,781	—	1,414,715,088	—	18,032,693	

収益的支出(消費税抜き)

項 目	区 分	平成 28 年 度		平成 27 年 度		増 減 (円)	備 考 ※金額は対前年度増減額 ※決算書P18.19及びP29～34参照
		金 額 (円)	構 成 比	金 額 (円)	構 成 比		
上 水 道	給 料 ・ 手 当	274,786,864	23.6	275,565,818	23.5	△ 778,954	正職員年齢38.8→38.0歳、正職員2名減→再任用
	賞与引当金繰入額	27,494,887	2.4	26,550,367	2.3	944,520	次年度6月期末勤勉手当原資(手当23,334千円、法定福利4,1617)
	退 職 給 付 費	22,509,495	1.9	16,432,752	1.4	6,076,743	退職者なし、全額引当金繰入額(2016人勤 月例給上昇)
	法 定 福 利 費	54,345,637	4.7	58,343,914	5.0	△ 3,998,277	正職員の減
	動 力 費	48,358,864	4.1	48,927,586	4.2	△ 568,722	電気料金プランの見直し、使用電力の減
	受 水 費	45,892,082	3.9	46,551,135	4.0	△ 659,053	実績受水量の減
	修 繕 費	87,086,754	7.5	68,030,902	5.8	19,055,852	原水浄水20,433千円、配水△9,182、給水5,809、業務2,027、総係△31
	薬 品 費	9,393,436	0.8	10,140,120	0.9	△ 746,684	薬品単価(PAC)の減
	受 託 工 事 費	1,126,000	0.1	4,595,000	0.4	△ 3,469,000	給水管移設工事の減
	負 担 金	23,803,329	2.0	30,159,855	2.6	△ 6,356,526	ダム負担2,890千円、退職手当他会計負担△7,253、広域化策定△2,200(皆減) ほか
	委 託 料	43,533,901	3.7	43,876,012	3.7	△ 342,111	制御システム保守△738千円、検針△107、森響水359 ほか
	そ の 他 経 費	44,780,814	3.8	50,758,885	4.3	△ 5,978,071	賃借△9,124千円、貸倒引当△353、水質検査費1,526、賃金・社保1,823 ほか
	減 価 償 却 費	377,515,161	32.4	364,133,572	31.1	13,381,589	償却対象資産の増
	資 産 減 耗 費	24,948,868	2.1	44,174,065	3.8	△ 19,225,197	鴨庄計装設備 ほか
	そ の 他 営 業 費 用	930,297	0.1	46,397	0.0	883,900	材料売却原価884千円 ほか
支 払 利 息	79,214,697	6.8	82,111,622	7.0	△ 2,896,925	企業債利息(※うち繰上影響額△9,325千円 上簡合計)	
その他雑支出(営業外)	89,266	0.0	86,435	0.0	2,831		
小計	1,165,810,352	100.0	1,170,484,437	100.0	△ 4,674,085		
簡 易 水 道	給 料 ・ 手 当	3,915,423	28.0	3,547,073	28.1	368,350	扶養・住居手当の増
	賞与引当金繰入額	384,707	2.8	336,250		48,457	次年度6月期末勤勉手当原資(手当326千円、法定福利59)
	退 職 給 与 金	130,865	0.9	106,488	8.9	24,377	引当金(当年度発生額)
	法 定 福 利 費	761,176	5.5	813,913	5.9	△ 52,737	
	動 力 費	198,887	1.4	205,245	1.3	△ 6,358	
	修 繕 費	428,247	3.1	686,599	0.1	△ 258,352	
	委 託 料	747,570	5.4	709,479	3.0	38,091	
	そ の 他 経 費	1,813,638	13.0	2,334,255	19.9	△ 520,617	賃借△1,096千円、水質検査費426 ほか
	減 価 償 却 費	3,461,277	24.8	3,602,736	23.2	△ 141,459	
資 産 減 耗 費	938,604	6.7	0	0.0	938,604	テレメータ除却	
支 払 利 息	1,185,593	8.5	1,293,191	9.6	△ 107,598	元利均等払の為(利息減⇔元金増)	
小計	13,965,987	100.1	13,635,229	100.0	330,758		
特 別 損 失	482,519		50,285,836		△ 49,803,317	退職給付引当金繰入額△50,000千円(皆減) ほか	
支 出 計	1,180,258,858	—	1,234,405,502	—	△ 54,146,644		
当 年 度 純 損 益	252,488,923	—	180,309,586	—	72,179,337	うち非現金64,305千円(長期前受金戻入の一部)	
その他未処分利益剰余金変動額	259,657,610		0			全額非現金	
当年度未処分利益剰余金	512,146,533	—	180,309,586	—	331,836,947		
消費税納付額(確定申告)	-41,136,000	—	8,390,200	—	△ 49,526,200	控除対象課税仕入の増	

平成28年度 資本的収支決算対前年度比較表【上水道事業・簡易水道事業】

資本的収入(消費税込み)

項目	区分	平成28年度	平成27年度	増減額(円)	備考 ※金額は実績額 ※決算書P35参照
		金額(円)	金額(円)		
上水道	企業債	1,148,000,000	836,000,000	312,000,000	機構資金(施設整備事業 583,000千円、浄水場改修565,000)
	工事負担金	17,486,151	37,537,840	△ 20,051,689	下水11,579千円、県補償5,029、消火栓878
	出資金	23,481,766	924,500	22,557,266	老朽石綿(特例債事業H22~28)
	固定資産売却代金		16,419	△ 16,419	ダム関連共有土地売却(皆減)
	寄付金		162,688	△ 162,688	管路用地取得費(皆減)
	小計	1,188,967,917	874,641,447	314,326,470	
簡水	他会計補助金	2,394,957	3,214,359	△ 819,402	補助対象企業債償還元金
収入	計	1,191,362,874	877,855,806	313,507,068	

資本的支出(消費税込み)

項目	区分	平成28年度	平成27年度	増減額(円)	備考 ※金額は実績額 ※決算書P36~37参照 ※各工事の詳細は決算書P14~
		金額(円)	金額(円)		
上水道	浄水場施設整備事業費	942,243,559	323,228,621	619,014,938	鴨庄浄水場改修938,359千円(継続) 外
	送水施設新設事業費	159,572,700	62,865,720	96,706,980	新配水池送水管(継続)
	送水施設改良事業費	131,447,310	89,505,540	41,941,770	第二送水管、山開作送水管(石綿)、新沖部線
	配水施設新設事業費	381,833,906	394,501,846	△ 12,667,940	新配水池、同配水管、消火栓
	配水施設改良事業費	41,215,093	107,375,760	△ 66,160,667	配水管更新
	庁舎施設費	1,238,760	3,499,200	△ 2,260,440	局庁舎空調設計業務
	事務費	32,256,458	32,074,289	182,169	職員1名給与費6,600千円、委託料(3本)24,363、賃借(仮設管リース)1,282 外
	固定資産購入費	18,207,837	17,636,362	571,475	通信回路5,886千円、システムサーバ(2台)5,695、テレメータ盤4,304、量水器817、公用車(1台)1,110 外
	用地取得費	180,000	842,990	△ 662,990	管路用地(継続)8㎡
	企業債償還金	273,297,974	272,273,088	1,024,886	定期償還
	小計	1,981,493,597	1,303,803,416	677,690,181	
簡水	固定資産購入費		1,001,160	1,001,160	
	企業債償還金	2,394,957	2,287,359	107,598	定期償還
	小計	2,394,957	3,288,519	1,108,758	
支出	計	1,983,888,554	1,307,091,935	678,798,939	

差引収入不足額	△ 792,525,680	△ 429,236,129	△ 363,289,551		
補てん財源	当年度分損益勘定留保資金	406,893,211	353,411,060	53,482,151	
	建設改良積立金	259,657,610		259,657,610	
	消費税資本的収支調整額	125,974,859	75,825,069	50,149,790	課税支出の増により
	合計	792,525,680	429,236,129	363,289,551	
差引補てん不足額	0	0	0		

平成28年度 貸借対照表前年度比較表 (水道事業)

科	目	平成28年度期末(A)	平成27年度期末(B)	比較増減(A)-(B)
資	固 定 資 産	10,979,138,765	9,792,178,561	1,186,960,204
	有 形 固 定 資 産	10,976,277,500	9,789,249,546	1,187,027,954
	土 地	549,057,069	548,877,069	180,000
	建 物	572,870,989	500,011,005	72,859,984
	構 築 物	18,051,911,291	16,638,446,534	1,413,464,757
	機 械 及 び 装 置	2,314,128,640	1,602,163,319	711,965,321
	車 輛 運 搬 具	32,365,682	32,286,306	79,376
	工 具 器 具 及 び 備 品	108,540,906	104,685,336	3,855,570
	減 価 償 却 累 計 額	△ 10,682,247,422	△ 10,390,981,544	△ 291,265,878
	建 設 仮 勘 定	29,650,345	753,761,521	△ 724,111,176
	無 形 固 定 資 産	2,861,265	2,929,015	△ 67,750
	施 設 利 用 権	2,006,250	2,074,000	△ 67,750
	電 話 加 入 権	855,015	855,015	0
	流 動 資 産	2,228,006,689	2,073,018,909	154,987,780
産	現 金 預 金	1,985,030,008	1,797,388,558	187,641,450
	未 収 金	216,194,992	184,702,392	31,492,600
	貸 倒 引 当 金	△ 9,147,948	△ 10,268,306	1,120,358
	貯 蔵 品	17,771,766	17,801,067	△ 29,301
	仮 払 金	1,250,057	1,295,719	△ 45,662
	前 払 費 用	398,970	418,460	△ 19,490
	前 払 金	16,358,844	81,531,019	△ 65,172,175
	そ の 他 流 動 資 産	150,000	150,000	0
資 産 合 計	13,207,145,454	11,865,197,470	1,341,947,984	

負	固 定 負 債	5,647,025,145	4,814,374,157	832,650,988
	企 業 債	4,898,517,395	4,088,506,767	810,010,628
	退 職 給 付 引 当 金	442,756,575	420,116,215	22,640,360
	修 繕 引 当 金	305,751,175	305,751,175	0
	流 動 負 債	968,816,700	702,669,718	266,146,982
	企 業 債	337,989,372	275,692,931	62,296,441
	未 払 金	543,196,416	342,644,799	200,551,617
	前 受 金			0
	賞 与 引 当 金	27,879,594	26,886,617	992,977
	そ の 他 流 動 負 債	59,751,318	57,445,371	2,305,947
債	繰 延 収 益	1,373,875,382	1,406,696,057	△ 32,820,675
	長 期 前 受 金	2,767,900,135	2,741,512,123	26,388,012
	同 収 益 化 累 計 額	△ 1,394,024,753	△ 1,334,816,066	△ 59,208,687
	資 本 金	3,594,542,986	3,567,275,851	27,267,135
本	自 己 資 本 金	3,594,542,986	3,567,275,851	27,267,135
	剰 余 金	1,622,885,241	1,374,181,687	248,703,554
	資 本 剰 余 金	468,022,653	468,022,653	0
	県 及 び 国 庫 補 助 金	134,297,029	134,297,029	0
	工 事 負 担 金	227,450,483	227,450,483	0
	受 贈 財 産 評 価 額	43,712,404	43,712,404	0
	寄 附 金	349,304	349,304	0
	そ の 他 資 本 剰 余 金	62,213,433	62,213,433	0
	利 益 剰 余 金 (※うち現金)	1,154,862,588 (※ 830,899,845)	906,159,034 (※ 902,373,665)	248,703,554 (※ △ 71,473,820)
	減 債 積 立 金	574,240,837	574,240,837	0
	建 設 改 良 積 立 金	38,287,718	121,421,111	△ 83,133,393
	水 源 涵 養 林 整 備 積 立 金	30,187,500	30,187,500	0
	未 処 分 利 益 剰 余 金 (※うち現金)	512,146,533 (※ 188,183,790)	180,309,586 (※ 176,524,217)	331,836,947 (※ 11,659,573)
負 債 ・ 資 本 合 計	13,207,145,454	11,865,197,470	1,341,947,984	

平成28年度 業務量対前年度比較表【工業用水道事業】

項目・区分	28年度決算(A)	27年度決算(B)	増減(A-B)
給水事業所数	3事業所	3事業所	0事業所
基本使用水量	9,015,500 m <sup>3</sup>	9,040,200 m <sup>3</sup>	△ 24,700 m <sup>3</sup>
日産化学工業(株)	2,007,500 m <sup>3</sup>	2,013,000 m <sup>3</sup>	△ 5,500 m <sup>3</sup>
田辺三菱製薬工場(株)	5,256,000 m <sup>3</sup>	5,270,400 m <sup>3</sup>	△ 14,400 m <sup>3</sup>
西部石油(株)	1,752,000 m <sup>3</sup>	1,756,800 m <sup>3</sup>	△ 4,800 m <sup>3</sup>
実績給水量	8,708,773 m <sup>3</sup>	8,854,188 m <sup>3</sup>	△ 145,415 m <sup>3</sup>

平成28年度 収益の収支決算対前年度比較表【工業用水道事業】

収益の収入(消費税抜き)

項目	平成28年度		平成27年度		増減(円)	備考 ※金額は対前年度増減額 ※決算書P58.61 参照
	金額(円)	構成比	金額(円)	構成比		
水道料金	269,907,645	97.6	270,647,118	96.2	△ 739,473	前年度閏年分
他会計負担金	240,000	0.1	840,000	0.3	△ 600,000	児童手当負担金
受取利息	2,231,386	0.8	3,254,817	1.2	△ 1,023,431	普通預金△19千円、定期預金△964、病院△40
長期前受金戻入	3,967,247	1.4	4,114,793	1.5	△ 147,546	当年度減価償却対応分
雑収益(営業外)	278,294	0.1	2,401,199	0.9	△ 2,122,905	県工水代替送水電気料負担金△2,210千円(皆減)
収入計	276,624,572	100	281,257,927	100	△ 4,633,355	

収益的支出(消費税抜き)

項目	平成 28 年度		平成 27 年度		増 減 (円)	備 考 ※金額は対前年度増減額 ※決算書P58及びP62～64参照
	金額 (円)	構成比	金額 (円)	構成比		
給 料 ・ 手 当	62,134,975	26.2	63,317,838	26.1	△ 1,182,863	職員年齢52.0→54.0歳、給料616千円、手当△1,799千円 ほか
賞与引当金繰入額	6,892,138	2.9	6,724,712	2.8	167,426	次年度6月期末勤勉手当原資(手当5,814千円、法定福利1,078)
退 職 給 付 費	6,793,028	2.9	2,808,546	1.2	3,984,482	退職者なし、全額引当金繰入額(2016人勸 月例給上昇)
法 定 福 利 費	12,998,328	5.5	14,195,276	5.8	△ 1,196,948	
動 力 費	36,759,658	15.5	38,406,130	15.8	△ 1,646,472	電気料金プランの見直し
受 水 費	53,990,800	22.8	54,138,727	22.3	△ 147,927	前年度閏年
修 繕 費	4,238,525	1.8	4,246,997	1.7	△ 8,472	
負担金(営業費用)	10,308,214	4.4	10,776,624	4.4	△ 468,410	
委 託 料	3,344,141	1.4	3,580,533	1.5	△ 236,392	
そ の 他 経 費	4,392,061	1.9	5,358,988	2.2	△ 966,927	臨時職員賃金・社会保険料△819千円、賃借料△91 外
減 価 償 却 費	30,068,496	12.7	28,780,949	11.9	1,287,547	償却対象資産の増
資 産 減 耗 費	158,982	0.1	5,392,649	2.2	△ 5,233,667	除却資産の減
支 払 利 息	4,628,595	2.0	5,088,151	2.1	△ 459,556	元利均等払により 元金増⇔利息減
雑支出(営業外費用)	21,186	0.0	0	0.0	21,186	前年度臨時職員社会保険料
支 出 計	236,729,127	100	242,816,120	100	△ 6,086,993	
当 年 度 純 損 益	39,895,445	—	38,441,807	—	1,453,638	うち非現金性利益(長期前受金戻入相当3,967千円)
その他未処分利益剰余金変動額	43,373,505	—	66,858,130	—	△ 23,484,625	4条補てん使用積立金取崩額(非現金性利益…旧組入資本制度分)
当年度未処分利益剰余金	83,268,950	—	105,299,937	—	△ 22,030,987	
消費税納付額(確定申告)	8,588,800	—	6,523,800	—	2,065,000	控除対象課税仕入の減

平成28年度 資本的収支決算対前年度比較表【工業用水道事業】

資本的収入(消費税込み)

項目	区分	平成28年度	平成27年度	増減額(円)	備考 ※決算書P65参照
		金額(円)	金額(円)		
貸付金償還金		10,000,000	10,000,000	0	病院会計(7年据置 年利0.4% 償還H27~28' 10,000千円*2年、H29~33' 66,000千円*5年)
収入計		10,000,000	10,000,000	0	

資本的支出(消費税込み)

項目	区分	平成28年度	平成27年度	増減額(円)	備考 ※決算書P65参照 ※各工事の明細は決算書P58参照
		金額(円)	金額(円)		
浄水場施設整備事業費		1,994,220	12,050,640	△ 10,056,420	高天原電灯・動力変圧器更新
送水施設改良事業費		54,265,680	73,207,260	△ 18,941,580	西部線送水管
庁舎施設整備事業費			388,800	△ 388,800	
用地取得費			680,301	△ 680,301	
企業債償還金		21,508,483	21,048,927	459,556	元利均等払により 元金増⇔利息減(企業債残高 228,934千円⇒207,425)
支出計		77,768,383	107,375,928	△ 29,607,545	

差引収入不足額		△ 67,768,383	△ 97,375,928	29,607,545	
措置額		△ 10,000,000	△ 10,000,000	0	平成19年度決算措置額の為、差引不足額計算には算入しない
補てん財源	当年度分損益勘定留保資金	30,227,478	34,173,598	△ 3,946,120	
	建設改良積立金	21,865,022	45,809,203	△ 23,944,181	
	減債積立金	21,508,483	21,048,927	459,556	
	消費税資本的収支調整額	4,167,400	6,344,200	△ 2,176,800	課税支出の減により
	合計	77,768,383	107,375,928	△ 29,607,545	
差引補てん不足額		0	0	0	

平成28年度 貸借対照表前年度比較表 (工業用水道事業)

科	目	平成28年度期末(A)	平成27年度期末(B)	比較増減(A)-(B)
資	固 定 資 産	1,185,004,951	1,173,139,929	11,865,022
	有 形 固 定 資 産	854,982,645	833,117,623	21,865,022
	土 地	66,007,118	66,007,118	0
	建 物	84,426,407	84,426,407	0
	構 築 物	1,260,935,370	1,210,689,370	50,246,000
	機 械 及 び 装 置	392,685,592	394,018,729	△ 1,333,137
	車 輛 運 搬 具	2,012,101	2,012,101	0
	工 具 器 具 及 び 備 品	5,270,740	5,270,740	0
	減 価 償 却 累 計 額	△ 957,854,683	△ 930,806,842	△ 27,047,841
	建 設 仮 勘 定	1,500,000	1,500,000	0
	無 形 固 定 資 産	22,306	22,306	0
	電 話 加 入 権	22,306	22,306	0
	投 資	330,000,000	340,000,000	△ 10,000,000
	他 会 計 貸 付 金	330,000,000	340,000,000	△ 10,000,000
	産 流 動 資 産	472,929,479	490,521,236	△ 17,591,757
	現 金 預 金	448,136,784	465,623,083	△ 17,486,299
	未 収 金	24,780,605	24,885,413	△ 104,808
前 払 費 用	12,090	12,740	△ 650	
資 産 合 計	1,657,934,430	1,663,661,165	△ 5,726,735	

負	固 定 負 債	377,068,131	392,253,600	△ 15,185,469
	企 業 債	185,446,836	207,425,333	△ 21,978,497
	退 職 給 付 引 当 金	78,133,512	71,340,484	6,793,028
	修 繕 引 当 金	113,487,783	113,487,783	0
	流 動 負 債	76,745,670	103,215,134	△ 26,469,464
	企 業 債	21,978,497	21,508,483	470,014
	未 払 金	47,525,035	74,631,939	△ 27,106,904
	賞 与 引 当 金	6,892,138	6,724,712	167,426
	そ の 他 流 動 負 債	350,000	350,000	0
	繰 延 収 益	109,425,945	113,393,192	△ 3,967,247
債	長 期 前 受 金	325,012,145	325,012,145	0
	同 収 益 化 累 計 額	△ 215,586,200	△ 211,618,953	△ 3,967,247
	資 本 金	400,340,888	329,367,965	70,972,923
	自 己 資 本 金	400,340,888	329,367,965	70,972,923
	剰 余 金	694,353,796	725,431,274	△ 31,077,478
	資 本 剰 余 金	90,472,033	90,472,033	0
	工 事 分 担 金	72,133,332	72,133,332	0
	受 贈 財 産 評 価 額	1,984,881	1,984,881	0
	寄 附 金	16,353,820	16,353,820	0
	利 益 剰 余 金	603,881,763	634,959,241	△ 31,077,478
(※うち現金)	(※ 556,541,011)	(※ 563,986,318)	(※ △ 7,445,307)	
本	利 益 積 立 金	18,000,000	18,000,000	0
	減 債 積 立 金	169,398,136	190,906,619	△ 21,508,483
	建 設 改 良 積 立 金	306,214,677	293,752,685	12,461,992
	水 源 涵 養 林 整 備 積 立 金	27,000,000	27,000,000	0
	未 処 分 利 益 剰 余 金	83,268,950	105,299,937	△ 22,030,987
	(※うち現金)	(※ 35,928,198)	(※ 34,327,014)	(※ 1,601,184)
負 債 ・ 資 本 合 計	1,657,934,430	1,663,661,165	△ 5,726,735	

## 平成28年度 山陽小野田市水道事業キャッシュ・フロー計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：円)

1 業務活動によるキャッシュ・フロー	決算値	正味CF
当年度純利益	252,488,923	252,488,923
減価償却費	380,976,438	380,976,438
長期前受金戻入額	△ 64,305,133	△ 64,305,133
受取利息及び受取配当金	△ 1,696,729	△ 1,696,729
支払利息	80,400,290	80,400,290
有形固定資産除却損	25,887,472	25,887,472
※ 未収金の増減額	△ 31,492,600	
※ 未払金の増減額	200,551,617	
たな卸資産の増減額	29,301	29,301
※ 引当金の増加額	22,512,979	
※ その他流動資産の増加額	65,237,327	
※ その他流動負債の減少額	2,305,947	
小計	932,895,832	673,780,562
受取利息及び受取配当金	1,696,729	1,696,729
支払利息	△ 80,400,290	△ 80,400,290
業務活動によるキャッシュ・フロー	854,192,271	595,077,001
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 1,582,220,764	△ 1,582,220,764
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	19,881,108	19,881,108
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,562,339,656	△ 1,562,339,656
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
企業債による収入	1,148,000,000	1,148,000,000
企業債の償還による支出	△ 275,692,931	△ 275,692,931
他会計からの出資による収入	23,481,766	23,481,766
財務活動によるキャッシュ・フロー	895,788,835	895,788,835
資金増加額(又は減少額)	187,641,450 (A)	△ 71,473,820
資金期首残高	1,797,388,558	1,797,388,558
資金期末残高	1,985,030,008	1,725,914,738

公営企業の未収・未払等の変動額※は、決算日後約1カ月程度でほぼ精算されるため、これらの影響を除外して、通年の事業活動によって生じた資金の増減を「正味CF」として試算した。

平成28年度決算の概要

【水道事業】

1	業務量				
(1)	給水人口				63,333 人
(2)	給水戸数				28,643 戸
(3)	配水量				8,615,906 m <sup>3</sup>
(4)	有収水量				7,455,025 m <sup>3</sup>
(5)	有収率				86.53 %
2	収益的収支 (税抜き)				
	収益的収入	(※うち非現金 64,305,133)			1,432,747,781 円
	収益的支出				1,180,258,858 円
	当年度純利益				252,488,923 円
	その他未処分利益剰余金変動額	(※全額非現金)			259,657,610 円
	当年度未処分利益剰余金				512,146,533 円
	利益処分案	(自己資本金)	(※非現金分)		-323,962,743 円
	〃	(建設改良積立金)			-188,183,790 円
	繰越未処分利益剰余金				0 円
3	資本的収支 (税込み)				
	資本的収入				1,191,362,874 円
	資本的支出	(H27' 繰越分171,416,000含む)			1,983,888,554 円
	差引不足額				-792,525,680 円
	補てん額				792,525,680 円
	(内訳)				
	当年度分損益勘定留保資金				406,893,211
	当年度分消費税資本的収支調整額				125,974,859
	建設改良積立金				259,657,610
	差引補てん不足額				0 円
4	積立金				
	(名称)	(27年度決算)	(28年度取崩)	(28年度積立)	(期末残高)
	減債積立金	574,240,837	0	0	574,240,837 円
	建設改良積立金	297,945,328	-259,657,610	188,183,790	226,471,508 円
	水源涵養林整備積立金	30,187,500	0	0	30,187,500 円
	合計	902,373,665	-259,657,610	188,183,790	830,899,845 円
					※利益処分子定
5	引当金 (固定負債)				
	(名称)	(27年度決算)	(28年度取崩)	(28年度引当)	(期末残高)
	退職給付引当金	420,116,215	0	22,640,360	442,756,575 円
	修繕引当金	305,751,175	0	0	305,751,175 円
6	企業債				
		(27年度決算)	(28年度償還)	(28年度借入)	(期末残高)
	建設改良に伴う企業債	4,364,199,698	-275,692,931	1,148,000,000	5,236,506,767 円

## 平成28年度山陽小野田市工業用水道事業キャッシュ・フロー計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位:円)

1 業務活動によるキャッシュ・フロー	決算値	正味CF
当年度純利益	39,895,445	39,895,445
減価償却費	30,068,496	30,068,496
長期前受金戻入額	△ 3,967,247	△ 3,967,247
受取利息及び受取配当金	△ 2,231,386	△ 2,231,386
支払利息	4,628,595	4,628,595
有形固定資産除却損	158,982	158,982
※ 未収金の増減額	104,808	
※ 未払金の増減額	△ 27,106,904	
※ 引当金の増加額	6,960,454	
※ その他流動資産の増加額	650	
※ その他流動負債の減少額	0	
小計	48,511,893	68,552,885
受取利息及び受取配当金	2,231,386	2,231,386
支払利息	△ 4,628,595	△ 4,628,595
業務活動によるキャッシュ・フロー	46,114,684	66,155,676
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 52,092,500	△ 52,092,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 52,092,500	△ 52,092,500
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
企業債の償還による支出	△ 21,508,483	△ 21,508,483
※ 一般会計又は他の特別会計からの償還金	10,000,000	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,508,483	△ 21,508,483
資金増加額(又は減少額)	△ 17,486,299 (A)	△ 7,445,307
資金期首残高	465,623,083	465,623,083
資金期末残高	448,136,784	458,177,776

公営企業の未収・未払等の変動額※は、決算日後約1カ月程度でほぼ精算されるため、これらの影響を除外して、通年の事業活動によって生じた資金の増減を「正味CF」として試算した。  
「他会計からの償還金」も、単に固定資産から流動資産への振替えのため、除外している。

平成28年度決算の概要

【工業用水道事業】

1 業務量

(1) 給水事業所数	3 事業所
(2) 基本使用水量	9,015,500 m <sup>3</sup>
(3) 契約水量	9,015,500 m <sup>3</sup>
(4) 実績水量	8,708,773 m <sup>3</sup>

2 収益的収支（税抜き）

収益的収入	(※うち非現金 3,967,247)	276,624,572 円
収益的支出		236,729,127 円
当年度純利益		39,895,445 円
その他未処分利益剰余金変動額	(※全額非現金)	▲ 43,373,505 円
当年度未処分利益剰余金		83,268,950 円
利益処分案	(自己資本金) (※非現金分)	-47,340,752 円
〃	(建設改良積立金)	-35,928,198 円
繰越未処分利益剰余金		0 円

3 資本的収支（税込み）

資本的収入		10,000,000 円
資本的支出		77,768,383 円
措置額		10,000,000 円
差引不足額		-77,768,383 円
補てん額		77,768,383 円
(内訳)		
当年度分損益勘定留保資金		30,227,478
当年度分消費税資本的収支調整額		4,167,400
減債積立金		21,508,483
建設改良積立金		21,865,022
差引補てん不足額		0 円

4 積立金

(名称)	(27年度決算)	(28年度取崩)	(28年度積立)	(期末残高)
利益積立金	18,000,000	0	0	18,000,000 円
減債積立金	190,906,619	-21,508,483	0	169,398,136 円
建設改良積立金	328,079,699	-21,865,022	35,928,198	342,142,875 円
水源涵養林整備積立金	27,000,000	0	0	27,000,000 円
合計	563,986,318	-43,373,505	35,928,198	556,541,011 円

※利益処分予定

5 引当金

(名称)	(27年度決算)	(28年度取崩)	(28年度引当)	(期末残高)
退職給付引当金	71,340,484	0	6,793,028	78,133,512 円
修繕引当金	113,487,783	0	0	113,487,783 円

6 企業債

	(27年度決算)	(28年度償還)	(28年度借入)	(期末残高)
建設改良に伴う企業債	228,933,816	-21,508,483	0	207,425,333 円

## 宇部市・山陽小野田市水道事業広域化検討状況（報告）

平成 29 年（2017 年）8 月 30 日現在

### 1 検討体制

- ・両市の公営企業職員により検討委員会、幹事会及び専門部会を設置
- ・専門部会は、基本計画作成専門部会、技術系専門部会、事務系専門部会の 3 つを設置
- ・検討委員会、幹事会及び基本計画作成専門部会 … H27(2015)5.1 設置
- ・技術系専門部会及び事務系専門部会 … H27(2015)8.17 設置

### 2 開催状況

※注 いずれかの事業体で単独に開催された協議は、これを含まない。

- ・検討委員会 H27 年度 第 1 回：H27.6.3 第 2 回：H28.2.15  
H28 年度 第 3 回：H28.5.18 第 4 回：H28.8.26  
H29 年度 第 5 回：H29.8.17
- ・幹事会 H27 年度 7 回開催  
H28 年度 9 回開催  
H29 年度 4 回開催
- ・専門部会 H27 年度 基本計画 11 回開催 技術 7 回開催 事務 9 回開催  
(コンサルタント協議 13 回)  
H28 年度 基本計画 1 回開催 技術 3 回開催 事務 1 回開催  
合同 1 回開催  
H29 年度 合同 1 回開催 技術 2 回開催 事務 1 回開催

### 3 決定事項

- ・ 水道広域化の形態は、経営の一体化による一部事務組合方式とする。
- ・ 経営の一体化の後、事業統合に向けて引き続き協議する。
- ・ 一部事務組合を設置する前に、両市による一部連携も可能なら開始する。  
(来年 4 月から一部事務事業<sup>※注</sup>の広域連携を開始することで詳細協議中)

※注 ①浄水場薬品の共同購入

②水質検査業務の共同実施

③修理用資材の共有・融通

- ・ 一部事務組合で所管できない以下の事業については、市長部局に移管する方向で調整する。

山陽小野田市：工業用水道事業

宇部市：下水道事業

### 4 主な検討課題

- ・ 厚東川を水源とする以下の現浄水場の再編計画

山陽小野田市：高天原浄水場

宇部市：広瀬浄水場、中山浄水場

- ・ 山口県水道整備基本構想の見直し

策定：昭和 60 年度（1985 年度）に山口県が策定

趣旨：水資源の不足、水源水質の劣化、料金格差等の問題が生じていることから、貴重な水資源の有効活用、県民等しく均衡のとれた負担のもとに同質の水道サービスを提供することを究極の目標とし、未給水区域の解消、料金格差の是正及び水道事業経営の健全化を図るため、計画的かつ広域的に水道施設を整備する基本的な方向を明らかにし今後の水道行政の指針とする

圏域：宇部市、小野田市、美祢市、楠町、山陽町、美東町、秋芳町  
(3 市 4 町)

⇒ 現：宇部市、山陽小野田市、美祢市

目標年度：昭和 80 年度 (=平成 17 年度 (2005 年度))

## 宇部市・山陽小野田市水道事業広域化に係る両市長会談（報告）

日 時 : 平成 29 年（2017 年）8 月 18 日（金）10 時～10 時 35 分

場 所 : 宇部市役所 市長応接室

出席者 :	[宇部市]	[山陽小野田市]
	市長 久保田后子	市長 藤田剛二
	副市長 末次宣正	副市長 古川博三
	管理者 和田誠一郎	管理者 岩佐謙三
	副局長 田原宏	次長 原田健治
	次長 溝部貢平	

目 的 : 平成 27 年（2015 年）2 月 26 日、久保田宇部市長と白井山陽小野田市長の会談により、両市の水道事業広域化について検討・推進することとなり、同年 6 月に両市の公営企業管理者を責任者とした検討委員会を設置し協議を続けている。本年 4 月に山陽小野田市は藤田新市長となり、宇部市では 7 月に久保田市長が 3 期目に入ったことから、改めて、両市長の会談により水道事業広域化の方向性を確認することとした。

結 果 : 両市とも人口・有収水量が減少していく中、安全な水道水を供給し続けるために両市が協力することで意見が一致し、引き続き、水道広域化を検討していくことが確認された。

意 見 :

[山陽小野田市長]

- ・ 方向性としては間違いないと思っているので、これまで両市長が話をされたことを踏襲することには異論はない。むしろ加速度的に進めていく課題でもある。
- ・ 広域の事業化にはいろいろなプラス要素がある。消防の広域化では大きな成果があったが、水道事業の広域化では”企業の合併”という要素が入ってくる。総論はよくても各論に入ってくると、企業合併が破綻ということが往々にして起こる。それほど難しいということも認識している。課題解決に重要なのは、お互いの情報を全て開示するという。良い所も悪い所も包み隠さず出し合い、それらの情報を基に良い形を作っていけたらと考えている。これを大切にしたい。

[宇部市長]

- ・ 水道事業＝水の提供をどうしていくか、安全な水道水をどうやって供給するか、誰のために何のために、という観点で取り組む必要がある。
- ・ 市民は水道料金に敏感。市民のために重要な改革をやっていくということを明確にしないと進まない。
- ・ 情報を公表していくことが、市民の理解を得るためのカギになる。市広報やホームページなどで両市が積極的に公開していく必要がある。

# 写真

(平成 29 年 8 月 18 日 (金) 宇部市役所市長応接室)



山陽小野田市 } 水 道 } 事業経営戦略  
簡易水道

団 体 名 : 山陽小野田市

事 業 名 : 山陽小野田市水道事業

策 定 日 : 2017年(平成29年)03月

計 画 期 間 : 2017年度(平成29年度) ~ 2056年度(平成68年度)

1. 事業概要

(1) 事業の現況

① 給 水

供用開始年月日	1931年(昭和6年)04月01日	計画給水人口	84,020人
法適(全部・財務) ・非適の区分	(当然)全部適用 ※簡易水道は任意全部適用で、上水と一 の会計としている。	現在給水人口	63,644人
		有収水量密度	55.61千m <sup>3</sup> /ha

② 施 設

水 源	<input checked="" type="checkbox"/> 表流水, <input checked="" type="checkbox"/> ダム, <input checked="" type="checkbox"/> 伏流水, <input checked="" type="checkbox"/> 地下水, <input checked="" type="checkbox"/> 受水, <input type="checkbox"/> その他 (複数選択可)		
施 設 数	浄水場設置数	5	管 路 延 長 422.22 千m
	配水池設置数	15	
施 設 能 力	48,290 m <sup>3</sup> /日	施 設 利 用 率	48.5%

③ 料 金

料金体系の概要・考え方	<input type="checkbox"/> 径別基本・従量(通増型)料金制 <input type="checkbox"/> 径別基本料金…受益に応じた個別原価主義をより反映させるため。 家庭用料金の低廉化のため、小口径には基本水量を付加。 <input type="checkbox"/> 通増型従量料金…水源に不足はないが、家庭用料金の低廉化のため、大口使用者に負荷をかけている。 資産維持費は資金収支方式で一部算入している。(過去の料金改定時点での累積欠損解消に必要な資金のみ)	
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	2009年(平成21年)04月01日	

④ 組 織

組織体制	1局(水道局) 4課(総務課、業務課、工務課、浄水課) 9班 19係
職員数	61名※9名(管理者1名除く)※は内数で工水会計支弁職員
職種	事務職18名※2名、技術職41名※7名
年齢構成	20歳代14名 30歳代11名 40歳代21名※1名 50歳代13名※8名 60歳代2名 (数値は2016.4.1現在 平均年齢:40.6歳)

(2) これまでの主な経営健全化の取組

近隣事業体(宇部市)との広域化を検討中 2013.7 広域化研究会発足 2014.7研究会報告を各事業管理者に提出 2015.2 二市首長による「広域化検討の覚書」締結 2015.6 広域化検討委員会発足 現在 委員会配下に幹事会、各専門部会を設置し、広域化レベル「①事業統合～④施設の共同化」の中での、効果や実現性を検証しながら、最終形態を協議中。
---

\*1 「広域化」とは、①事業統合、②経営の一体化、③管理の一体化、④施設の共同化をいい、それぞれの内容は以下のとおりである。なお、将来の広域化に向けた他団体との勉強会の設置や人事交流等について説明すべきものがあればその内容も記載すること。  
 ①経営主体も事業も一つに統合された形態、②経営主体は一つだが、認可上、事業は別の形態、③維持管理業務や総務系の事務処理などを共同実施あるいは共同委託等により実施する形態、④浄水場、配水池、水質試験センターなどの施設を共同保有する形態

(3) 経営比較分析表を活用した現状分析

※ 直近の経営比較分析表(「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」(公営企業三課室長通知))による経営比較分析表を添付すること。

別紙1のとおり(2015年度決算ベース)

## 2. 将来の事業環境

### (1) 給水人口の予測

別紙2のとおり（2015年国勢調査ベース）  
当市の人口ビジョンを基に普及率を乗じて算出。

### (2) 水需要の予測

別紙2のとおり

### (3) 料金収入の見通し

別紙2のとおり

### (4) 施設の見通し

施設の老朽化については、別冊アセットマネジメント報告書のとおり  
余剰能力の見通しについては、別紙2の施設利用率・負荷率を参照

本市の水道施設は管路・建物・機械等全体的に老朽化が進んでいる。加えて、施設耐震化等の災害対応も遅れている。これら施設更新需要は膨大で、水道システムを維持するためには、早急に施設更新サイクル（投資計画・財政計画を含む）を確立する必要がある。

### (5) 組織の見通し

局全体の職員数については、2016年度末61名（うち再任用2名）から、浄水場の一元管理によって、6名削減した55名体制を目標値（2028年度達成予定）とする。

## 3. 経営の基本方針

事業概要：上水道（主に、山陽地区、小野田地区の二つの水源・浄水・送水・配水系統と有する）  
簡易水道（二地区）

経営理念：現状のサービス水準で、将来にわたり施設や財政面も含めた、水道システムの維持を図る。

基本方針：①独立採算・受益者負担の原則に基づく、持続可能な財政基盤の確保。  
②施設の老朽化・災害に対応するため、施設更新サイクルを確立する。

#### 4. 投資・財政計画（収支計画）

（1）投資・財政計画（収支計画）：別紙3-1及び別紙3-2のとおり

（2）投資・財政計画（収支計画）の策定に当たっての説明

##### ① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	<p>アセットマネジメントの結果に基づき、将来にわたって水道サービスの維持が可能となるよう、施設の更新サイクルを確立する。</p> <p>これに伴う施設更新計画策定にあたっては、計画期間中の人口推移を注視しつつ、緊急性・重要性・費用対効果を考慮し、施設更新の優先順位を決定する。財政状況の悪化を理由にした、事業のを先送り・縮小は厳に慎む。</p> <p>また、更新後の施設の耐用年数は、法定の2倍程度に延伸することで、計画の実現性を高める。</p>
-----	--

投資計画は別冊アセットマネジメント報告書のとおり。

投資計画策定にあたっての取組

施設・設備の長寿命化：法定耐用年数にとらわれず、局独自に実耐用年数を設定（法定の2倍程度）し、投資（施設更新）計画を策定  
 施設・設備への投資平準化：今後80年間の更新需要を各年度平準化し、単年約6.21億円を計画期間（40年間）内は継続して投資する。

##### ② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	<p>計画期間内を通じて、資金ベースでの収支均衡を図る。</p> <p>長期借入金の残高を計画末期には給水収益の3倍以内とし、利息負担の軽減を図るとともに、世代間負担の公平性を保つ。</p> <p>長期借入、国庫補助等で調達できない資金は、適正な料金水準を設定することで収入を確保する。</p> <p>健全な財政運営の為、内部留保資金は2017年度末の水準を維持する。（一時借入金利息の発生を避ける）</p>
-----	--

財源の積算についての考え方

料金：適正な資産維持費を算入した総括原価方式での料金水準の設定を目指し、計画期間を通じて資金収支の均衡を図る。  
 企業債：計画最終年度（2056年度）時点での残高を給水収益の3倍以内とする。  
 負担金：地方公営企業法17条の2に基づく適正な繰入を継続する。（消火栓、簡易水道関連）  
 補助金：生活基盤施設耐震化等交付金（補助率…管路1/3 その他施設1/4）を予定。（計画期間合計35億円）

なお、料金については平成30年度に改定実施予定で積算している。

##### ③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

営業費用積算の考え方	<p>総括事項：費用積算上は、物価上昇を考慮しない。（計画が40年間を長期であるため、物価上昇はその都度料金改定で対応する）</p> <p>職員給与費：局全体の職員数については、2016年度末61名（うち再任用2名）から6名削減した55名体制を目標値とする。                  2016年度の給与水準で、定年退職者は全員再任用し、正職員は定期昇給を加味した上で一人あたりの平均給与を算出する。                  工水会計支弁の正職員9名を除き、職員数に平均給与を乗じて給与費を算出する。</p> <p>委託料：2013～2015年度実績額が施設老朽化により年0.5%増加する見込み。</p> <p>修繕費：2013～2015年度実績額が施設老朽化により年0.5%増加する見込み。</p> <p>動力費：2013～2015年度実績の配水量1m<sup>3</sup>あたり経費は将来も同額とし、配水量の減少に比例して変動する。</p> <p>薬品費：2013～2015年度実績の薬品単価は将来も同額とし、配水量の減少に比例して変動する。</p> <p>減価償却費：新規投資分を含めて法定（定額法・取替法）で算出。</p> <p>資産減耗費：少額かつ非現金支出であり、資金収支に影響ないことから、計上しない。</p> <p>その他の営業費用：原則、2013～15年度までの過去3年平均値とする。</p> <p>営業外費用積算の考え方</p> <p>企業債利息：発行済み及び新規借入の企業債利息を計上。（据置なし30年元金均等償還 年利1.5%）</p>
------------	--

(3) 投資・財政計画（収支計画）に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※ 投資・財政計画（収支計画）に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。  
 また、(1)において、純損益（法適用）又は実質収支（法非適用）が計画期間内の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュール等について記載する必要があること。

① 投資について検討状況等

民間の資金・ノウハウ等の活用 （PFI・DBOの導入等）	未反映の取組みは特にありません。 監視業務等についても委託化が望ましいとされているが、危機管理面及び将来的な委託料の高騰といった懸念材料があるため慎重に検討を行いたい。
施設・設備の廃止・統合 （ダウンサイジング）	未反映の取組みは特にありません。 今後、施設の廃止・統合については、広域化の中で検討する。
施設・設備の合理化 （スペックダウン）	未反映の取組みは特にありません。 今後は、有収水量の減少を注視し、各施設のスペックダウンを検討する。
施設・設備の長寿命化等の 投資の平準化	未反映の取組みは特にありません。
広域化	近隣事業体との広域化による浄水施設の統合を検討中。
その他の取組	未反映の取組みは特にありません。

② 財源について検討状況等

料 金	未反映の取組みは特にありません。
企 業 債	未反映の取組みは特にありません。
繰 入 金	未反映の取組みは特にありません。
資産の有効活用等（*2）による 収入増加の取組	未反映の取組みは特にありません。
その他の取組	未反映の取組みは特にありません。 計画期間終盤（2051年度以降）は損益計算上赤字が発生するが、計画が長期間であること、資金収支の均衡は保たれることから、問題視しない。（赤字は、減価償却費の増加が主因であるため）

\*2 遊休資産の売却や貸付、債券運用の導入、小水力発電や太陽光発電など

③ 投資以外の経費についての検討状況等

委 託 料	未反映の取組みは特にありません。
修 繕 費	未反映の取組みは特にありません。
動 力 費	未反映の取組みは特にありません。
職 員 給 与 費	未反映の取組みは特にありません。 今後は、労働生産性向上により、時間外手当の縮減をめざす。 現在、近隣事業体との広域化により、人員合理化を検討中。
その他の取組	近隣事業体との広域化による、事務の効率化によるコストダウンを検討中。

5. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略の事後検証、 更新等に関する事項	物価変動・有収水量の推移等を注視し、4～5年毎にローリングを行い、逐次変更を加える。
-------------------------	--

# 経営比較分析表

山口県 山陽小野田市

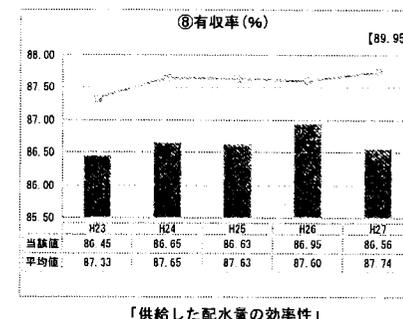
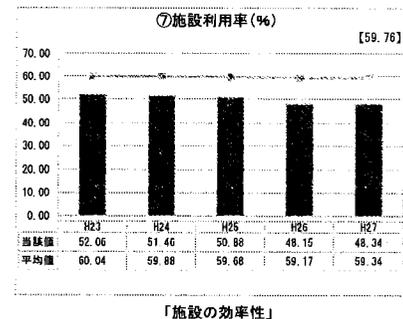
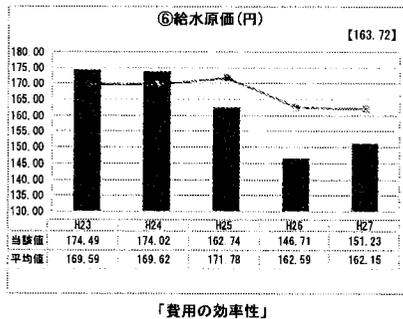
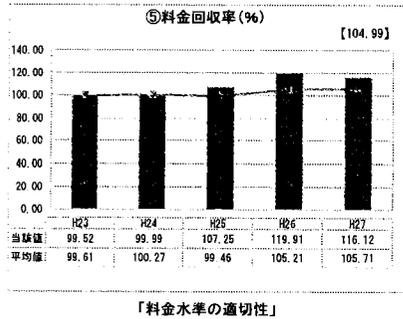
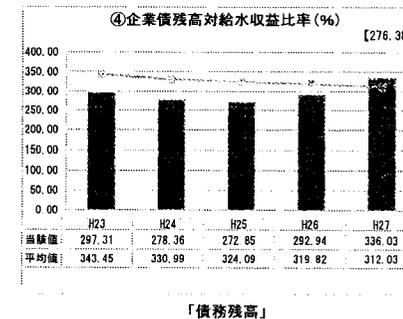
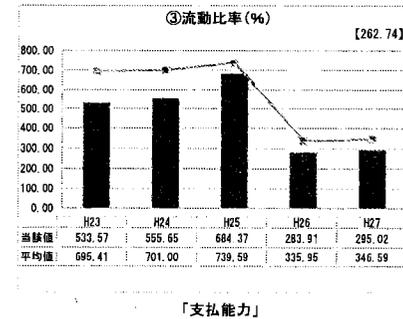
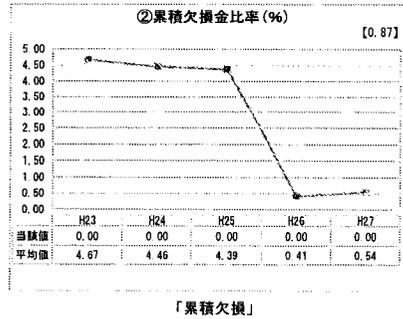
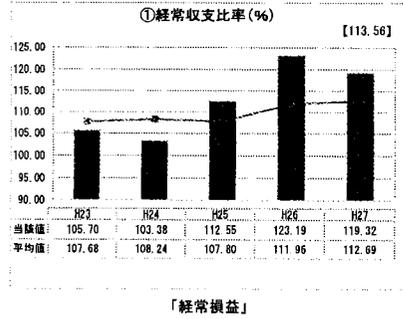
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	53.50	99.29	2,851

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
64,366	133.09	483.63
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
63,644	65.04	978.54

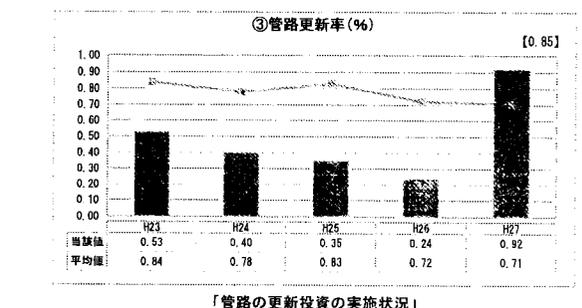
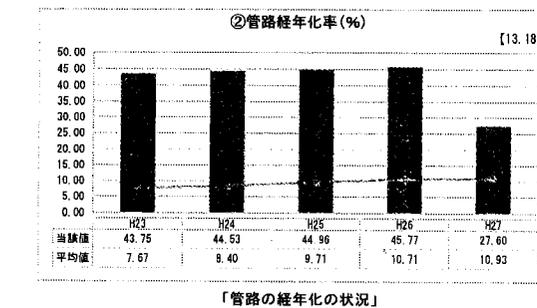
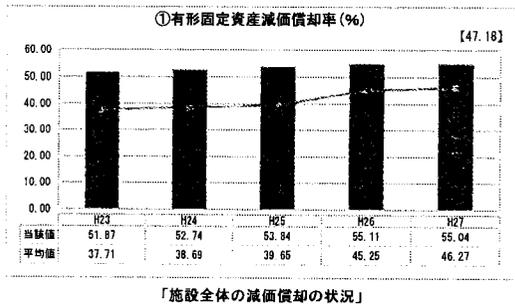
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 現状は100%を超え類似団体平均値を上回っているが、今後人口減少による給水収益の減、施設老朽化による修繕費等の増高を考慮した場合必ずしも十分とは言えない状況である。

② 欠損金は生じていない。

③ 大型の建設投資による資金需要が増加したため、悪化しており、今後その傾向は続く。※H26以降は、会計制度変更(流動負債企業債)によるものである。

④ 大型投資の財源として借入を行ったことにより類似団体平均を超える水準となった。比率の劇的な減少は望めないが、将来にわたる世代間公平を保てるよう充率の調整を行い300%の水準まで引き下げを目指す。

⑤ 100%を上回っているものの今後の更新投資等の財源確保を考えれば十分といえない。

⑥ 減少傾向は会計制度変更(長期前受金戻入相当額の前償除)によるもので経営改善によるものではない。

⑦ 平均値を下回り、かつ人口減少により徐々に利用率が下がっている。貯水能力を引き上げ、最大稼働時の施設負荷を下げるような施設整備が理想である。

⑧ 平均値を下回り続けており早急な管路更新の必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

① 近年50%超であり、類似団体と比較しても高水準といえる。導水・浄水・送水・配水施設のいずれも老朽化が確実に進行しており漏水防止、災害対策の観点からも早急な対応(更新)が必要であるといえる。

② 類似団体・県内他市と比較しても依然高水準となっており、管網の整理・統合を図りながら大量更新に着手する時期にある。

③ 新配水池築造に伴う送配水管布設により更新率は改善を見せたが決して高い水準とは言えず、今後も継続した管路更新を行い、1.0%を超える水準を目指す。

## 全体総括

施設の老朽化は全体的に平均値を大きく上回っている。早期に総合的な施設更新計画を立て、実行する時期にある。それに伴う財源は、現在の単年度利益では到底賅えないため、必要な経営改善施策を事前に講じ、大型投資に耐える経営体力を確保する必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

将来事業予測  
(給水人口・有収水量・料金)

区分	年度	-3	-2	-1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
		2013年 H25	2014年 H26	2015年 H27	2016年 H28	2017年 H29	2018年 H30	2019年 H31	2020年 H32	2021年 H33	2022年 H34	2023年 H35	2024年 H36	2025年 H37	2026年 H38
行政区域内人口 (市人口ビジョン)	※国調ベース 人	63,444	63,075	62,706	62,266	61,826	61,385	60,945	60,505	60,304	60,103	59,901	59,700	59,499	59,160
行政区域内人口	※住基・外登ベース 人	64,758	64,433	64,100	63,863	63,412	62,960	62,509	62,057	61,851	61,645	61,438	61,232	61,025	60,678
" 世帯	戸	28,459	28,600	28,701	28,761	28,812	28,858	28,901	28,941	29,092	29,242	29,389	29,536	29,680	29,754
給水区域外人口	人	166	157	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149
" 世帯	戸	78	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
給水区域内人口	人	64,592	64,276	63,940	63,704	63,254	62,803	62,353	61,902	61,697	61,492	61,286	61,081	60,875	60,529
" 世帯	戸	28,381	28,526	28,627	28,687	28,738	28,784	28,827	28,867	29,018	29,168	29,315	29,462	29,606	29,680
未利用者	人	300	298	296	295	293	291	289	287	286	285	284	283	282	280
" 世帯	戸	125	124	123	123	122	121	120	119	119	119	119	119	119	118
給水人口	人	64,292	63,978	63,644	63,409	62,961	62,512	62,064	61,615	61,411	61,207	61,002	60,798	60,593	60,249
" 世帯	戸	28,256	28,402	28,504	28,564	28,616	28,663	28,707	28,748	28,899	29,049	29,196	29,343	29,487	29,562
水道普及率		99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%
原単位	※1人一日平均使用水量	331.0ℓ	316.0ℓ	317.5ℓ	315.1ℓ	312.8ℓ	309.6ℓ	306.5ℓ	303.6ℓ	300.5ℓ	297.4ℓ	294.7ℓ	292.6ℓ	290.4ℓ	288.6ℓ
有収水量	m <sup>3</sup>	7,768,306	7,379,279	7,395,839	7,382,537	7,187,623	7,064,371	6,963,345	6,828,558	6,735,247	6,643,762	6,580,554	6,492,432	6,423,452	6,347,387
" 一日平均	m <sup>3</sup>	21,283	20,217	20,207	20,226	19,692	19,354	19,026	18,708	18,453	18,202	17,980	17,787	17,598	17,390
有収率		86.7%	87.0%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%
配水量	m <sup>3</sup>	8,967,224	8,486,807	8,543,694	8,528,328	8,303,162	8,160,781	8,044,076	7,888,369	7,780,576	7,674,893	7,601,874	7,500,076	7,420,390	7,332,519
" 一日平均	m <sup>3</sup>	24,568	23,252	23,343	23,365	22,748	22,358	21,978	21,612	21,317	21,027	20,770	20,548	20,330	20,089
施設利用率(施設能力48,290m <sup>3</sup> /日)		50.9%	48.1%	48.3%	48.4%	47.1%	46.3%	45.5%	44.8%	44.1%	43.5%	43.0%	42.6%	42.1%	41.6%
" 一日最大	m <sup>3</sup>	32,295	30,220	38,729	38,659	37,639	36,993	36,464	35,758	35,270	34,791	34,460	33,998	33,637	33,239
負荷率(一日平均/一日最大)		76.1%	76.9%	60.3%	60.4%	60.4%	60.4%	60.3%	60.4%	60.4%	60.4%	60.3%	60.4%	60.4%	60.4%
料金収入	千円	1,355,907	1,298,149	1,298,750	1,293,953	1,274,147	1,450,299	1,436,284	1,418,105	1,404,830	1,391,670	1,382,771	1,371,269	1,362,163	1,352,370

将来事業予測  
(給水人口・有収水量・料金)

		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	25	30	35	40
年度		2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2041年	2046年	2051年	2056年
区分		H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H53	H58	H63	H68
行政区域内人口 (市人口ビジョン)	※国調ベース 人	58,822	58,483	58,145	57,806	57,471	57,136	56,801	56,466	56,131	55,783	54,051	52,396	51,029	49,911
行政区域内人口	※住基・外登ベース 人	60,331	59,984	59,636	59,289	58,945	58,602	58,258	57,915	57,571	57,215	55,437	53,740	52,338	51,192
〃 世帯	戸	29,825	29,893	29,958	30,021	30,083	30,142	30,198	30,252	30,303	30,344	30,510	30,651	30,898	31,245
給水区域外人口	人	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	134	129	124	120
〃 世帯	戸	74	74	73	73	72	72	71	71	70	70	67	65	62	60
給水区域内人口	人	60,183	59,837	59,490	59,144	58,801	58,459	58,116	57,774	57,431	57,076	55,303	53,611	52,214	51,072
〃 世帯	戸	29,751	29,819	29,885	29,948	30,011	30,070	30,127	30,181	30,233	30,274	30,443	30,586	30,836	31,185
未利用者	人	278	276	274	272	270	268	266	264	262	260	250	241	236	231
〃 世帯	戸	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	103	99	99	99
給水人口	人	59,905	59,561	59,216	58,872	58,531	58,191	57,850	57,510	57,169	56,816	55,053	53,370	51,978	50,841
〃 世帯	戸	29,634	29,703	29,770	29,834	29,898	29,958	30,016	30,071	30,124	30,166	30,340	30,487	30,737	31,086
水道普及率		99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%	99.3%
原単位	※1人一日平均使用水量	286.90	285.20	283.60	281.90	280.20	278.60	277.20	275.70	274.50	273.30	267.50	261.70	255.70	249.40
有収水量	m <sup>3</sup>	6,291,037	6,200,837	6,128,889	6,057,283	6,003,410	5,918,379	5,852,097	5,788,207	5,744,192	5,668,521	5,375,007	5,098,069	4,863,733	4,628,855
〃 一日平均	m <sup>3</sup>	17,189	16,989	16,791	16,595	16,403	16,215	16,033	15,858	15,695	15,530	14,726	13,967	13,289	12,682
有収率		86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%	86.6%
配水量	m <sup>3</sup>	7,267,424	7,163,224	7,080,110	6,997,390	6,935,156	6,836,928	6,760,359	6,686,553	6,635,707	6,548,291	6,209,223	5,889,304	5,618,598	5,347,266
〃 一日平均	m <sup>3</sup>	19,856	19,625	19,398	19,171	18,949	18,731	18,522	18,319	18,130	17,941	17,012	16,135	15,351	14,650
施設利用率(施設能力48,290m <sup>3</sup> /日)		41.1%	40.6%	40.2%	39.7%	39.2%	38.8%	38.4%	37.9%	37.5%	37.2%	35.2%	33.4%	31.8%	30.3%
〃 一日最大	m <sup>3</sup>	32,944	32,471	32,094	31,720	31,437	30,992	30,645	30,310	30,080	29,684	28,147	26,697	25,469	24,239
負荷率(一日平均/一日最大)		60.3%	60.4%	60.4%	60.4%	60.3%	60.4%	60.4%	60.4%	60.3%	60.4%	60.4%	60.4%	60.3%	60.4%
料金収入	千円	1,345,079	1,333,350	1,323,889	1,314,263	1,306,832	1,295,397	1,286,291	1,277,533	1,271,360	1,261,124	1,218,305	1,173,991	1,131,032	1,084,197





# 財政計画 (資本的収支)

年 度		-3	-2	-1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
		(2013) 25年度 (決算)	(2014) 26年度 (決算)	(2015) 27年度 前々年度 (決算)	(2016) 28年度 前年度 (決算見込)	(2017) 29年度 本年度	(2018) 30年度	(2019) 31年度	(2020) 32年度	(2021) 33年度	(2022) 34年度	(2023) 35年度	(2024) 36年度	(2025) 37年度	(2026) 38年度
区 分															
資 本 的 収 入	1. 企 業 債	315,800	360,300	836,000	1,148,000	291,100	242,500	233,600	253,900	282,200	304,400	298,900	298,300	275,100	266,000
	2. 他 会 計 出 資 金	235	68	43	33,500										
	3. 他 会 計 補 助 金	2,086	2,184	3,214	2,395	2,508	2,626	2,749	2,878	3,014	3,156	3,304	3,459		
	4. 他 会 計 負 担 金	23,761	5,041	881											
	6. 国(都道府県)補助金	7,233					35,420	54,670	66,916	52,250	27,808	27,808	27,808	27,808	27,809
	7. 固定資産売却代金			16											
	8. 工 事 負 担 金	20,567	23,709	37,538	19,552	19,987									
	9. そ の 他			163											
	計 (A)	<b>369,682</b>	<b>391,302</b>	<b>877,855</b>	<b>1,203,447</b>	<b>313,595</b>	<b>280,546</b>	<b>291,019</b>	<b>323,694</b>	<b>337,464</b>	<b>335,364</b>	<b>330,012</b>	<b>329,567</b>	<b>302,908</b>	<b>293,809</b>
	(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)														
純計 (A)-(B) (C)	369,682	391,302	877,855	1,203,447	313,595	280,546	291,019	323,694	337,464	335,364	330,012	329,567	302,908	293,809	
支 本 的 支 出	1. 建 設 改 良 費	288,020	488,292	1,032,531	1,763,845	719,772	689,200	689,254	689,397	689,544	689,609	689,718	689,787	689,810	689,826
	うち職員給与費	6,435	6,562	6,469	6,663	7,054	7,183	7,237	7,380	7,527	7,592	7,701	7,770	7,793	7,809
	2. 企 業 債 償 還 金	422,956	257,186	274,560	275,693	337,989	353,040	359,730	368,456	367,080	369,014	355,290	348,627	327,827	323,107
	計 (D)	<b>710,976</b>	<b>745,478</b>	<b>1,307,091</b>	<b>2,039,538</b>	<b>1,057,761</b>	<b>1,042,240</b>	<b>1,048,984</b>	<b>1,057,853</b>	<b>1,056,624</b>	<b>1,058,623</b>	<b>1,045,008</b>	<b>1,038,414</b>	<b>1,017,637</b>	<b>1,012,933</b>
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (E)	<b>341,294</b>	<b>354,176</b>	<b>429,236</b>	<b>836,091</b>	<b>744,166</b>	<b>761,694</b>	<b>757,965</b>	<b>734,159</b>	<b>719,160</b>	<b>723,259</b>	<b>714,996</b>	<b>708,847</b>	<b>714,729</b>	<b>719,124</b>	
補 填 財 源	1. 損益勘定留保資金	327,929	318,727	353,411	343,511	393,513	401,387	409,994	418,107	426,435	431,733	437,123	451,329	464,047	475,185
	2. 利益剰余金処分額				362,424	297,858	309,787	297,451	265,532	242,205	241,006	227,353	206,998	200,162	193,419
	3. 繰越工事資金														
	4. そ の 他	13,365	35,449	75,825	130,156	52,795	50,520	50,520	50,520	50,520	50,520	50,520	50,520	50,520	50,520
計 (F)	341,294	354,176	429,236	836,091	744,166	761,694	757,965	734,159	719,160	723,259	714,996	708,847	714,729	719,124	
補填財源不足額 (E)-(F)															
企 業 債 残 高 (H)	<b>3,699,647</b>	<b>3,802,760</b>	<b>4,364,200</b>	<b>5,236,507</b>	<b>5,189,618</b>	<b>5,079,078</b>	<b>4,952,948</b>	<b>4,838,392</b>	<b>4,753,512</b>	<b>4,688,898</b>	<b>4,632,508</b>	<b>4,582,181</b>	<b>4,529,454</b>	<b>4,472,347</b>	
対料金収入比率 (H)/料金収入	<b>272.9%</b>	<b>292.9%</b>	<b>336.0%</b>	<b>404.7%</b>	<b>407.3%</b>	<b>350.2%</b>	<b>344.8%</b>	<b>341.2%</b>	<b>338.4%</b>	<b>336.9%</b>	<b>335.0%</b>	<b>334.2%</b>	<b>332.5%</b>	<b>330.7%</b>	
単年度資金収支 (引当金増減を除く)	178,405	165,902	176,525	△ 228,663	△ 121,258	△ 345	△ 321	△ 296	△ 150	23	△ 290	△ 25	△ 235	71	
内 部 留 保 資 金	<b>559,947</b>	<b>725,849</b>	<b>902,374</b>	<b>673,711</b>	<b>552,453</b>	<b>552,108</b>	<b>551,787</b>	<b>551,491</b>	<b>551,341</b>	<b>551,364</b>	<b>551,074</b>	<b>551,049</b>	<b>550,814</b>	<b>550,885</b>	

## ○他会計繰入金

収益的収支分	15,883	15,366	16,435	15,366	6,537	2,755	2,632	2,503	2,367	2,225	2,077	1,922	1,800	1,800
うち基準内繰入金	6,378	6,133	6,489	5,773	6,000	2,277	2,216	2,151	2,083	2,012	1,938	1,861	1,800	1,800
うち基準外繰入金	9,505	7,309	9,946	9,593	537	478	416	352	284	213	139	61		
資本的収支分	28,887	38,641	5,901	38,641	2,508	2,626	2,749	2,878	3,014	3,156	3,304	3,459		
うち基準内繰入金	4,083	1,877	3,357	2,693	1,254	1,313	1,374	1,439	1,507	1,578	1,652	1,729		
うち基準外繰入金	24,804	6,133	2,544	35,948	1,254	1,313	1,375	1,439	1,507	1,578	1,652	1,730		
合 計	44,770	54,007	22,336	54,007	9,045	5,381	5,381	5,381	5,381	5,381	5,381	5,381	1,800	1,800



## 山陽小野田市工業用水道事業経営戦略 (山陽小野田市工業用水道事業)

団 体 名 : 山陽小野田市

事 業 名 : 山陽小野田市工業用水道事業

策 定 日 : 2017年(平成29年)03月

計 画 期 間 : 2017年度(平成29年度) ~ 2056年度(平成68年度)

### 1. 事業概要

#### (1) 事業の現況

##### ① 給水

供用開始年月日	1982年(昭和57年)04月01日	契約水量	24,700 m <sup>3</sup> /日
給水先事業所数	3か所	一日平均配水量	24,700 m <sup>3</sup>

##### ② 施設

水 源	<input type="checkbox"/> 表流水, <input checked="" type="checkbox"/> ダム, <input type="checkbox"/> 伏流水, <input type="checkbox"/> 地下水, <input type="checkbox"/> 湖沼水, <input checked="" type="checkbox"/> その他 (複数選択可)		
施 設 数	浄水場設置数	1	管 路 延 長 16,349 km
	配水池設置数	0	
現在配水能力	24,700 m <sup>3</sup> /日	計画配水能力	24,700 m <sup>3</sup> /日

##### ③ 料金

料金体系の概要・考え方	責任水量制従量料金制度…各ユーザー(3社)にそれぞれ専用管で全量給水しており、施設の初期投資の大部分をユーザーが負担している為 資産維持費等は総括原価に算入していない
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	1982年(昭和57年)04月01日

##### ④ 組織

組織体制	1局(水道局) 4課(総務課、業務課、工務課、浄水課) 9班 19係
職員数	61名※9名(管理者1名除く)※は内数で工水会計支弁職員
職種	事務職18名※2名、技術職41名※7名
年齢構成	20歳代14名 30歳代11名 40歳代21名※1名 50歳代13名※8名 60歳代2名 (平均年齢: 40.6歳)

#### (2) これまでの主な経営健全化の取組

上水道との施設共用化は、可能な限り全て行っている。 広域化は同種事業者が近隣にないため現実的ではない。
--

#### (3) 経営分析

※経営分析に用いる指標については、総務省が毎年度公表している「工業用水道事業経営指標」等を参考に各団体、各施設の実情に応じて適切なものを選択すること。

料 金 収 入	(H27) 270,647千円	(H26) 269,553千円	(H25) 269,908千円
純 損 益	(H27) 38,442千円	(H26) 41,472千円	(H25) 33,509千円
経 常 収 支 比 率	(H27) 115.8%	(H26) 120.6%	(H25) 113.6%
固定資産に対する建設仮勘定の割合	(H27) 0.1%	(H26) 0.2%	(H25) 0.1%
現在配水能力に対する	(H27) 100.0%	(H26) 100.0%	(H25) 100.0%
現在配水能力に対する	(H27) 97.9%	(H26) 98.7%	(H25) 99.1%
料 金 回 収 率	(H27) 113.4%	(H26) 119.8%	(H25) 109.7%

#### 【上記の指標等を踏まえた経営分析】

料金収入…責任水量制の為、安定して確保できている。  
 純利益…毎年度一定の利益をあげている。  
 施設利用率…ほぼ100%である。  
 料金回収率…100%を超えている。

以上から、現在の契約状況(全量契約済)においては、安定経営を維持している。

## 2. 将来の事業環境

### (1) 水需要の予測

過去も変動なく、現状と同量で推移する。(責任水量制でユーザー3社のみ、全量給水している為、予測困難)

### (2) 料金収入の見通し

責任水量制の為、料金収入は変化なしで予測。

### (3) 施設の見通し

施設の老朽化度合は、中期的には今後計画的に施設更新を行うことによって徐々に改善していく。ただし、長期的には施設の実耐用年数を独自に設定するために、法定耐用年数ベースでは経年化率は30～40%程度となる。

管路(金口径・管種共通)	法定耐用年数	40年	→	実耐用年数	80年
建築構造物(管理棟等)	法定耐用年数	50年	→	実耐用年数	70年
土木構造物(ろ過池、配水池等)	法定耐用年数	60年	→	実耐用年数	73年
機械設備(ポンプ施設等)	法定耐用年数	15年	→	実耐用年数	24年
電気計装設備(監視装置等)	法定耐用年数	15年	→	実耐用年数	15～25年

平成27年度末現在 管路の経年化率 66.5% その他の施設の経年化率 36.6%

全量給水しているため余剰能力なし。

### (4) 組織の見通し

上水道との兼任職員のうち、工水会計支弁職員9名は、引き続き配置する。

## 3. 経営の基本方針

公営企業の原則(独立採算、受益者負担)に沿って、過剰な利潤を追求せず安定供給と安定経営を第一義として、産業振興(市内業者の育成・支援)をはかる。  
健全経営を継続するため、施設投資財源を借入金に求めず、自己財源を充てる。将来の施設投資に備え、内部留保資金を確保する。

#### 4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画) : 別紙4-1及び別紙4-2のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

##### ① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	財政計画上、今後40年間の収支均衡（資金ベース）を保ちながら、施設更新サイクルを確立する。
-----	---

アセットマネジメントの結果に基づいた、施設更新計画を策定する。計画期間内で全ての経年化施設について更新を行う。  
 (更新後の施設の耐用年数は、法定の1.4~2倍程度に延伸する)

##### ② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	長期借入に頼ることなく、現行料金水準による収入をもって、施設投資を行う。
-----	--------------------------------------

施設投資の財源は、料金収入を原資とする。原則、長期借入は行わない。…ユーザーが少数限定の為、受益に対する世代間負担の公平を考慮する必要が無い。

##### ③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

###### 営業費用積算の考え方

総括事項 : 費用の見積もりは、物価上昇を考慮しない。  
 職員給与 : 局全体の職員数については、2016年度末61名（うち再任用2名）から6名削減した55名体制を目標値とする。  
 2016年度の給与水準で、定年退職者は全員再任用し、正職員は定期昇給を加味した上で一人あたりの平均給与を算出する。  
 工水会計支弁職員は引き続き正職員9名とし、平均給与を乗じて給与費を算出する。  
 委託料 : 2013~2015年度実績額が施設老朽化により年0.5%増加する見込み。  
 動力費 : 2013~2015年度実績の配水量1m<sup>3</sup>あたり経費は将来も同額とする。  
 減価償却費 : 新規投資分を含めて法定どおりに算出。  
 資産減耗費 : 少額かつ非現金支出であり、資金収支に影響ないことから、計上しない。  
 その他の営業費用 : 原則、2015年度までの過去3年平均値とする。

###### 営業外費用積算の考え方

企業債利息 : 発行済み企業債の利息償還のみ計上（新規発行しないため）

(3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※ 投資・財政計画(収支計画)に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。  
 また、(1)において、純損益(法適用)又は実質収支(法非適用)が計画期間内の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュール等について記載する必要があること。

① 投資についての検討状況等

民間の資金・ノウハウ等の活用 (PFI・DBOの導入等)	未反映の取組みは特にありません。 監視業務等についても委託化が望ましいとされているが、危機管理面及び将来的な委託料の高騰といった懸念材料があるため慎重に検討を行いたい。
施設・設備の廃止・統合 (ダウンサイジング)	未反映の取組みは特にありません。 ユーザー企業の事業計画を見ながら、対応する。
施設・設備の合理化 (スペックダウン)	未反映の取組みは特にありません。 現状ではスペックダウンは予定しない。(現状 負荷率100%の為)
施設・設備の長寿命化等の 投資の平準化	未反映の取組みは特にありません。
施設の共有化	未反映の取組みは特にありません。(現在も可能な限り上水道と共有化している)
その他の取組	未反映の取組みは特にありません。

② 財源についての検討状況等

料 金	未反映の取組みは特にありません。
企 業 債	未反映の取組みは特にありません。 平成19年度以降、新規借入は行っていない。経営環境に大きな変化がない限り、今後の施設投資も自己資金で行う予定。
繰 入 金	未反映の取組みは特にありません。 繰入基準及び公営企業法の経費負担の原則に基づいて繰入を行っていく。
資産の有効活用等(*)による 収入増加の取組	未反映の取組みは特にありません。(保有する遊休資産がほとんど無いため)
その他の取組	未反映の取組みは特にありません。計画期間終盤(2051年度以降)は損益計算上赤字が発生するが、計画が長期間

\* 遊休資産の売却や貸付、債券運用の導入、小水力発電や太陽光発電など

③ 投資以外の経費についての検討状況等

委 託 料	未反映の取組みは特にありません。
修 繕 費	未反映の取組みは特にありません。 計画的な老朽施設更新によって、縮減を図る。
動 力 費	未反映の取組みは特にありません。 省エネ機器導入や電力契約の見直しによって、縮減を図る。
職 員 給 与 費	未反映の取組みは特にありません。 労働生産性向上により、時間外手当の縮減をめざす。
その他の取組	未反映の取組みは特にありません。

5. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略の事後検証、 更新等に関する事項	物価変動等を注視し、4~5年毎にローリングを行い、逐次変更を加える。
-------------------------	------------------------------------









# 委員会資料

議案第 号

下水道課

## 平成28年度山陽小野田市下水道事業特別会計歳入歳出決算

歳入

(単位：円)

款	予算額	決算額	予算額と決算額との比較
1 分担金及び負担金	27,993,000	29,424,793	1,431,793
2 使用料及び手数料	597,179,000	602,021,318	4,842,318
3 国庫支出金	391,976,920	293,288,520	△98,688,400
4 繰入金	1,041,720,000	1,026,000,000	△15,720,000
5 繰越金	3,719,040	3,720,009	969
6 諸収入	626,000	614,918	△11,082
7 市債	989,800,000	937,600,000	△52,200,000
8 財産収入	796,000	796,716	716
計	3,053,809,960	2,893,466,274	△160,343,686

- ・受益者負担金 現年度収納率 97.27%  
不納欠損額 168,830円
- ・下水道使用料 現年度収納率 99.25%  
不納欠損額 7,146,359円

歳出

(単位：円)

款 項 目	予算額	決算額	予算額と決算額との比較
1 下水道事業費	1,280,726,960	1,110,960,818	169,766,142
1 下水道事業一般管理費	89,944,871	88,752,668	1,192,203
2 施設管理費	301,189,000	293,577,266	7,611,734
3 水質管理費	9,680,718	9,642,879	37,839
4 下水道建設費	879,912,371	718,988,005	160,924,366
2 公債費	1,772,583,000	1,770,010,152	2,572,848
1 元金	1,420,150,000	1,420,149,379	621
2 利子	352,433,000	349,860,773	2,572,227
3 予備費	500,000	0	500,000
計	3,053,809,960	2,880,970,970	172,839,990

歳入歳出差引残高 12,495,304円

うち翌年度に繰り越すべき財源 10,989,320円

∴実質収支額 1,505,984円

○工事請負費の内訳	606,504,120円
・汚水幹線管工事	148,154,680円
・汚水枝線管工事	131,856,920円
・処理場工事	144,180,000円
・ポンプ場工事	60,524,000円
・その他	26,521,560円

(繰越明許)

・汚水幹線管工事	95,266,960円
----------	-------------

施工延長

・汚水管	2,002.27m
・整備面積	24.91ha

○繰越明許費 (翌年度繰越)	158,877,720円	
歳出	工事請負費	147,871,720円
	委託料	11,006,000円
歳入	国庫補助金	98,688,400円
	地方債	49,200,000円
	一般財源	10,989,320円

○28年度末整備状況

全体計画面積	2,845.00ha
認可計画面積	1,434.00ha
整備面積	1,049.65ha (処理区域面積 1,049.65ha)
行政区域人口	63,777人 (28,837世帯)
処理区域人口	33,865人 (14,585世帯)
水洗化人口	30,613人 (12,248世帯)
普及率	53.1% (28年3月末 国 77.8%、県 64.3%)
水洗化率	90.4% (28年3月末 県 94.3%)

下水道使用料、調定額、収入額及び滞納額(5年間)

単位(円)

年度	1か月に20m <sup>3</sup> 使用した時の 下水道使用料	調定額			収入額			滞納額		
		現年度	過年度	計	現年度	過年度	計	現年度	過年度	計
平成24年度	2,992	532,830,797	62,534,079	595,364,876	525,605,428	13,836,193	539,441,621	7,225,369	48,697,886	55,923,255
平成25年度	2,992	535,176,779	50,191,336	585,368,115	528,555,370	10,582,460	539,137,830	6,621,409	39,608,876	46,230,285
平成26年度	3,336	577,593,717	39,234,694	616,828,411	570,673,474	9,407,717	580,081,191	6,920,243	29,826,977	36,747,220
平成27年度	3,336	591,965,670	28,127,821	620,093,491	587,098,892	8,022,178	595,121,070	4,866,778	20,105,643	24,972,421
平成28年度	3,336	600,510,474	17,826,062	618,336,536	596,035,190	5,454,340	601,489,530	4,475,284	12,371,722	16,847,006

委員会資料

議案第 号

下水道課

平成28年度山陽小野田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

歳入

(単位：円)

款	予 算 額	決 算 額	予算額と決算額との比較
1 使用料及び手数料	24,906,000	26,049,167	1,143,167
2 繰入金	60,133,000	58,100,000	△2,033,000
3 繰越金	102,000	102,938	938
4 諸収入	2,000	0	△2,000
5 市債	1,700,000	1,700,000	0
計	86,843,000	85,952,105	△890,895

・使用料 現年度収納率 99.5%  
不納欠損額 85,816円

歳出

(単位：円)

款 項 目	予 算 額	決 算 額	予算額と決算額との比較
1 農業集落排水事業費	23,568,000	22,612,241	955,759
2 公債費	63,225,000	63,223,279	1,721
1 元金	48,951,000	48,950,178	822
2 利子	14,274,000	14,273,101	899
3 予備費	50,000	0	50,000
計	86,843,000	85,835,520	1,007,480

歳入歳出差引残高 116,585円

# 農業集落排水事業整備状況

(平成29年3月末現在)

## 【小野田西地区】

・利用可能戸数	591戸
・水洗化済戸数	540戸
・未水洗化戸数	51戸
・水洗化率	91.4%

## 【仁保の上地区】

・利用可能戸数	51戸
・水洗化済戸数	49戸
・未水洗化戸数	2戸
・水洗化率	96.1%

## 【福田地区】

・利用可能戸数	76戸
・水洗化済戸数	74戸
・未水洗化戸数	2戸
・水洗化率	97.4%

平成29年8月1日

## 厚狭駅南口駐車場の利用状況と償還金について

都市計画課

### ○利用台数および稼働率について

		平成27年度	平成28年度	差
利用台数	合計	36,194 台	36,285 台 ※	+91台(+0.3%)
	日平均	99 台/日	107 台/日	+8台/日(+8%)
稼働率		54 %	58 %	+4 %

※ 料金精算機破壊事件により、10/5～10/14と10/31～11/15の26日間は台数測定及び料金徴収ができなかった。

### ○駐車料金等について

		平成27年度	平成28年度	差
駐車料金		27,046,650 円	13,587,650 円	-13,459,000 円
		74,100 円/日	40,082 円/日	-34,018 円
定期券	料金	832,000 円	920,000 円	+88,000 円
	利用者	104 人 (8.7 人/月)	230 人 (19.2 人/月)	+126人(+221%) (+10.5 人/月)
プリカ	千円 枚数	11,000 円 11 枚	7,000 円 7 枚	-4,000 円 -4 枚
	3千円 枚数	24,000 円 8 枚	9,000 円 3 枚	-15,000 円 -5 枚
	5千円 枚数	130,000 円 26 枚	140,000 円 28 枚	+10,000 円 +2 枚
料金合計		28,043,650 円	14,663,650 円	-13,380,000 円 (-47.7%)

### ○償還金について

年度	償還金	合計
平成29年度	19,796,362 円	24,368,252 円
平成30年度	4,571,890 円	

## 閉会中の継続調査事項について

委員会名	調 査 事 項	調査期間
産業建設 常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路行政に関すること</li> <li>・商業の振興に関すること               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 厚狭駅前・セメント町地区の活性化について</li> <li>(2) 地元企業、商店の活用、空き店舗対策について</li> <li>(3) 小野田駅前地区の整備促進について</li> <li>(4) プレミアム付商品券及び地域通貨について</li> </ul> </li> <li>・公共交通に関すること               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) デマンド交通システムについて</li> <li>(2) J R美祢線・小野田線、並びに新幹線厚狭駅の 利用促進について</li> <li>(3) 駐車場事業について</li> <li>(4) 地域公共交通計画について</li> </ul> </li> <li>・コンパクトシティ事業に関すること</li> <li>・観光行政に関すること               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 交流、観光施設を利用したまちづくりについて</li> <li>(2) 観光資源の有効利用について</li> </ul> </li> <li>・企業誘致に関すること</li> <li>・中小企業振興に関すること</li> <li>・農林水産に関すること               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地方卸売市場について</li> </ul> </li> <li>・水道事業に関すること</li> <li>・下水道事業に関すること               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 下水道認可区域について</li> </ul> </li> </ul>	平成29年10 月9日まで継続 して閉会中調査 する